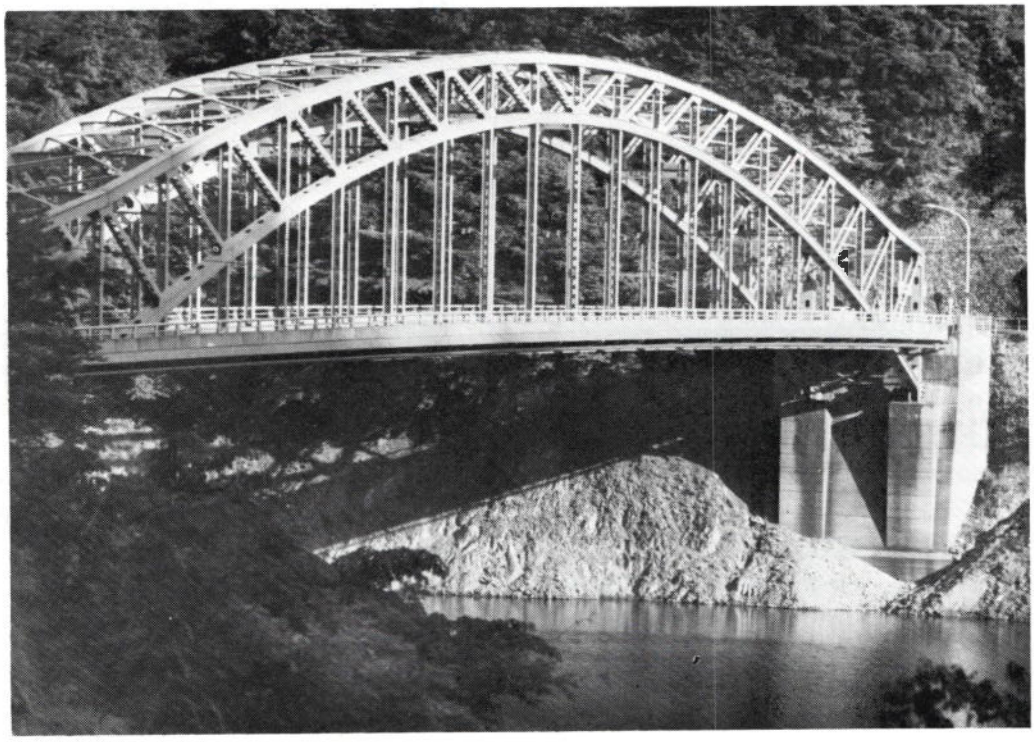
西多摩医師会報

第88号 昭和55年 1月



峰谷橋（奥多摩湖）　青梅市　近藤　肇

目　次

年頭所感……会長　高水　武夫…2
年頭に当り……副会長　内山　大…3
80 年代初頭に思う……副会長　瀬戸岡　進…4
時論
　医師会執行部に望むこと……金曜懇談会…5
文芸・随筆
　写真　青梅ゴルフ場の正月……近藤　肇…14
　短歌　七九年師走考……小泉　新策…15
　初夢……松原　貞一…15
　当るも占星術・当らぬも占星術　…内山　大…17
　正月の想い出……速水　完一…20
　新春随想……大橋　忠敏…21
理事会報告……23
事業部
　サンヘルスの発刊と活用について…箱崎　淳…24
　保険部……26
医師会日誌……26
同好会だより……27
あとがき……27

年頭所感

会長　高水武夫

会員の皆様、新年おめでとうございます。

世界は、イラン問題を契機として第2のオイルショック時代を迎え、更に在イランアメリカ大使館占拠事件によって、アメリカとイランとの関係は、一時は一触即発の危険な情勢でありましたが、最近に至りやや好転のきざしが見えて来たのは、まことに結構なことといえるでしょう。

ところで、激動の70年代も去り80年代の幕あけとなりましたが、政治的にも経済的にもその余波は続いており、われわれ医師会員もかかる情勢を直視して、適切に対処してゆかねばならぬと考えます。

さて、昨年は汚職問題や一般消費税導入問題等が影響したのか、衆議員選挙で自民党は大敗を喫し文字どおり保革伯仲の状態となり、すべての法案は野党の同意・協力なくしては成立不可能な情勢であります。このような状況下で、昨年継続審議となった健保法改正法案も提出されるであろうし、日本医師会長と自民党幹事長との確約事項で、長い間マスコミ等の攻撃の的であった社会保険診療報酬に対する租税特別措置法も4段階方式に改正されましたが、その際の修件であった各種保険の財政調整法は、国会を通過しない現況であります。昭和25年の第1回社会保障制度審議会で、その時の会長大内兵衛先生は、当面は各種健康保険の財政調整をすべきであり、長期的には一本化すべさである、と政府に勧告しております。公党たる自民党の面目にかけても是共約束を履行していただきたいものです。それにしても、法案の成立には国会という場が必要ですので、ひとりでも多くの同志を国会の場に送り込まねばならないわけです。そこで、本年7月に行なわれる参議員選挙には、丸茂重貞先生を医師会の面目にわけても最高点で当選させることが必要であります。それ故に、渡辺都医会長も非常な熱の入れようで、去る12月16日には丸茂重貞先生後援三多摩地区総決起大会が、多数の医師会員及び各種の協力団体の人々の参加を得て開催されましたが、さしもの府中市医師会館の講堂も超満員という盛況でした。渡辺会長の提唱する東京都30万票の一翼を荷なうためにも、西多摩医師会々員は総力を上げて努力しなければならないと存じます。

さて、西多摩地区の地域医療につきましては、自治体、保健所及び都出先機関と一層連携を強め学校保健、予防接種、休日診療等も順調に行なわれており、特に東京都が実施する救急対策の一環としての休日夜間診療並びに準夜間診療におきましても、当地区内医療機関の絶大なる協力のお陰をもちまして、これまた極めて順調に実施されており、この点会員の皆様のご協力に対し深く感謝致します。ところで、救急医療手当の無税化という税制面での裏付けにつきましては、日本医師会が毎年厚生省に申し入れておりますが、いつも大蔵省の反対に合って実現されておりません。われわれ医師会員は、この点を地域住民に強くアピールして大衆の声としてマスコミに反映させ、その実現を図るため努力しなければならないと思います。

さて、医師会館の改築整備も一応完了し、6・9カ月児健診も順調に実施されておりますが、将来は若い人達の手で一層立派な医師会館を建てていただきたいと思います。

以上かんたんではありますが、年頭に当りいささかの所感を述べましたが、皆様の一層のご協力をお願いする次第であります。

年頭に当り

副会長　内山　大

新年あけましてお目出とうございます。

会員皆様のご健康とご繁栄を、誌上をかりましてお喜び申し上げます。さて愈々80年代ですね。別稿にも書いておきましたが、80年代は果して「何か」が起るのでしょうか。起るとすれば、どんな問題がどのような形でふりかかってくるのでしょうか。　考えられる色々な問題 ― 医師急増問題、適配問題、地域医療えの対応諸問題等々―数え切れない程の問題が私達を取り巻いております。　これ等諸問題につきまして、最近になりまして会員の有志が集まりに懇談会というような会合を持ち、直面している諸問題につきまして相当つきつめた論議が真険にだされているということは、当誌上でも既に皆さんはご承知の通りでありますが、このように成る可く多くの会員が、出来るだけ多くの会合（話し合い）の場を持っていただいて、その中で各自が常日頃考えておられます医療に対するご意見、医師会に対する批判、執行部に対する不満、要望などを赤裸々な形で投げかけて下さることを、年当に当りまして、先づ何よりもお願い申し上げたいと思います。

そこで、私は今迄に何回かの会合がもたれ、会報にも載りましたいくつかの問題点につきまして、やや総論的ではありますが、私見を述べさせて頂きたいと思います。　いくつかの問題点と申しましたが、詮じつめれば一つの立脚点から出発していると思われます。それは矢張り「人間性」の問題です。医の倫理の問題です。病める人を医する者としての自覚 ― 職業意識 ― です。"S"SERVICE ABOVE SELF"という言葉があります。又惻隠の心ともいいます。医に携わり、医を業とする者すべからく先づ「仁」のこころを持つべきでしょう。　個人から医師会（個から全）へ、医師会から個人への相互の働きかけも、医師会を「集合体」でなく、「有機体」として捉えることによって、始めて可能になると思います。高い倫理感によって結ばれた有機体、それが医師会でなければならないと思います。　足趾の先端の創傷にも痛みを全身で受けとめるような医師会。望ましい像ですし、私の希望です。

次に各地で新規開業病医院に対する問題が大きく取り上げられました。この問題は、社会的にも大きな問題をはらんだ、非常にむづかしく又デリケートな問題です。ケースによっては会に入れなければ……というようなご意見もあったようですが、医師急増問題とからんできまして、非常に厄介です。　現在日本における全医師数の約六割が、医師会員だといわれています。十数万人の医師の中で医師会員は十万人弱です。毎年八千人づつの新医師の誕生。　西多摩レベルでなく日本レベルで考えた場合、医師会員の数の全医師中に占める割合が、政治的な重大問題であることは簡単にお解り頂けると思います。　西多摩医師会としましても、例外でいる訳にはいかないでしょう。

東京都医師会ではいま、如何にして医師会の仲間に組み入れるかという問題を特別に研究するために「医師急増に対する医師会のあり方」委員会という委員会を設けて数年前から検討しておりまして、来年頃は結論が出るのではないかと思われます。そういう訳で新入会希望者に対する私達の態度も、考えさせられる要素が多分にありまして、単なる自己保全でなく、入会希望者の人間性を加味するにしても、むづかしい問題です。

それから対外活動ということがいわれております。こういうことも、ともすれば惰性になりがちな（そんなことのないように、みんなが努めてはいる積りですが）執行部に対しまして、良い悪いは別としまして一種のカンフル剤的効果があるように思われます。　そこで、私達が対外活動をする場合に、いつも問題になりますのは、ご承知の通り西多摩地区は3市5町1村ということであります。何をやろうとしましても、技術的困難に直面します。そこで私は「地方の時代」ではございませんが、この西多摩医師会にも、地方の時代 ― ブロック更には各自治体の ― を導入したら如何かと考えております。と申しますのは、少し前までは、相当程度各自治体ごとの自由裁量権(?)があったのですが、最近になりまして所謂中央集権的に、すべての権限、業務が中央で決定されるようになりました。しかしこれから又以前のように、許容範囲内で各地域の実情に応じて各種対策を講じ、それの最大公約数的統合を中央でや

るというふうにやってみたらどうかと考えております。特に地域医療問題などにも、総論的には討議されても、各論的実行段階になりますと、さまざまな困難に直面していることは事実です。こういった場合も、自治体単位で可能な問題から取り上げ、最終的に西多摩全域をカバーするようにし、各実施段階において、中央の監督指導の下に調整をおこなえば、医師会方針との齟齬はなく、初期の目的は達成されるものと思われます。このように、可能な自治体あるいはそのいくつかの集合体が、地元の実情に即した問題点を一つ一つ解決していけば、西多摩地域における医療体系というものも自然に社会的要望に対応したものとなっていくと思います。

ボランティア活動の話しもありましたが、非常に結構な事で、全員心の中ではそういった愛の灯を燃やし続けておられる事と思います。ただ私達が会として実行する段階になりますと、他の会員と例えばＨＢ抗原の問題にしましても競合しないかという事の検討が必要になってくる訳です。そういう事さえ無ければ、対外的にアピールでき、医師会のイメージ　アップに繋がる事は、やはりどんどん見つけてやっていくべきでしょう。

最後に重ねてメンバー　パワーによって執行部を叱咤激励して頂き、よりベターな西多摩医師会にして頂くのが、80年代年頭の夢であり、希望でありお願いであります。

完

80年代初頭に思う

副会長　瀬戸岡　　進

明け行く1980年代の新春にあたり、新春の　御祝詞を申し上げます。

さて祝杯を納めて現実をながめますと、地域社会が小さかった頃は、寛大な心から生れた慈善が救済を受ける者によって人間味ある行為として感謝された。しかし地域社会が拡大し、社会が近代化し複雑になると、人間関係が疎遠となり、本来の慈意ではなくなり、政府によって行なわれる非人間的なものとなり、救済を受ける者もそれが当然と考えるようになった。それどころではない、与えられたものにも不満をもたらすようになり、欲求不満、勤労意欲の欠除、更には雇用者側の不満へと発展しつつある。この社会傾向は医療問題にも浸出して、我々開業医も第一線にあって、毎日つきあたる問題となってきた。この流れに一体医療はどう対処して行ったらよいだろうか。

昨年は十月末にWHOがナイロビから全世界に向けて、天然痘の根絶を宣言した。人類を数千年にわたって苦しめた一つの伝染病が、この地球上から撲滅された意義は非常に大きいし、医学の勝利であるが、これも世界の体制、慣習を乗り越えて協力した成果であると思う。

思想、信条を越えて、医学研究の成果を、人間味ある医療として、この乾燥した社会に如何に潤を与えるべきかが、80年代の私共第一線医師の、地域社会への務めであると思う。

この務めを具体的に考えてみると会員各自の医道、医術の向上問題、公衆衛生に関する諸問題、地域社会の厚生、福祉に関する問題、更には経済問題等多岐に亙る、これを強力に推進する為のエネルギーが現在の西多摩医師会にあるだろうかと反省せざるを得ない。こんな時数回にわたって会報に掲載されている金曜会の報告を読ませていただいて、大変勉強になった。

この新しいエネルギーは今放散されたままではあるが、尊いものだと思う。こうした多くの会員の胸襟を開いた話し合いから生れる新しいエネルギーが、善導されてこそ80年代の西多摩医師会は新しい時代を迎えるものと思う。

時　論

医師会執行部に望むこと

第八回金曜会記録　11月16日（金）Pm 8：00～10：30 ひのき茶屋にて

出席者　五十嵐敬晃　植田　稔　江本　虎雄　加藤　出
唐橋　善雄　川辺　隆道　近藤　肇　坂本　保
佐々木　章　清水章三郎　鈴木　穆　高木　直
速水　完一　堀田　洋夫　丸茂三千穂　深山　秀憲
百瀬　政雄　吉野　住雄

吉野　第八回金曜会は「医師会執行部に望むこと」をテーマに始めさせていただきます。今回の話はこれまで数回に亘って話しあってきたことのまとめのような内容になるかと思われますが、司会者としては皆様方の御発言を方向付けることはしないつもりですので、どうぞ御自由に御発言下さい。

堀田　いろいろと望まれることも多いと思いますが、前半で総論的なお話をうかがい、後半で各論とまとめをしたほうがよいと思います。

吉野　これまでもいくつか執行部に対する希望はでておりましたね。指導性を望むとか、会員の声を捨い上げる機構が欲しいとか。

堀田　前回の主題は会員の協力をいかにして得るかということだったのですが、部分的には協力が得られても全体的にはまとまりが悪いということもあって、具体的にどうやれば会員の協力が得られ易いかということから入っていけばよいと思いますが。協力体制の問題ですね。

近藤　何か具体的なことを出して下さい。

一般会員の十分な討議が先決

吉野　司会者があまり喋るのは悪い気がするので遠慮したのですが、現在の下部医師会はあまりにも上部団体の伝達事項を承認して会員に通達するということだけをやっていて、会員の声を下から上へ引き挙げようとする努力が足りないように強く感じているんです。また西多摩医師会独自に何かやろうといった議論はあまりされていないようですね。

百瀬　昔、保険医総辞退という事態があった。何月何日から保険医総辞退に入るから地方の各医師会も協力して欲しいという話が来たんです。本来ならば保険医総辞退をしたいと思うがどうだろうかと各地方医師会に話を持ち帰って、十分に会員の声を聞きその上で総辞退に入るべきだと思ったんです。　中央部の人達は政治接渉の末、すぐに始めなければまずいとかの事情があったであろうことはわかるけれども、私達が仕事を休むということは住民にとっても我々の経済にとっても大変な問題なわけです。私たちの所で一度十分に討議して、どうしてもやるんだということになり、中央部でも結束してやって下さいということにならなければ、やはり脱落者が出やすくなる。上からの指令を理事会に流してそれを各医師会がうまく下請的にこなすというやり方はしっくりしないと今でも感じていますね。何事も上意下達でなくて下意上達でなければ本当に迫力ある行動は起せないと私は思いますね。

坂本　だけどね、私は昔の者で、これからはそうではないと思いますけど、これまでは下から上へは言わなかったですよ。あまり。羽村でも医師会がこんなでは困るという会員の声が聞かれないんです。　皆さん診療には熱心だけど医師会にあまり関心がないんじゃないですか。こういう会ができたものだから声がでるけれども今まではなかったですね。　この会が声を下から盛り上げる力になっていけば良いじゃないですか。

吉野　だから初めは憎まれたんですけど。平穏だった医師会で、こんな会を作って騒ぎはじめた。何か怪しからん運動をはじめたのではなかろうかと言われたこともありますね。

坂本　それは誤解もあったでしょうね。

速水　青梅だけでならよいけど他地区に呼びかけるのはよくないと言われたこともある。

百瀬　最近は会報をみて他の医師会でユニーク

な発想もあると言ってくれているようです。我々が話をしているのは将来の展望のためのものであることをだんだんに理解してくれているようですね。

失言を恐れず積極的な接触を望む

吉野　もうひとつ、我々はこの会で有志が話をしているけど、医師会として一般会員が自分の意志とか希望を発表する機会が殆どないんです。総会は老議長先生の下に議事進行が定まっていて、その間に意見をさしはさむ余地は殆んどない。総会はそれで結構なんですが一般会員が執行部にいろいろ注文する場が何もないところに非常に大きな問題があると思うんです。　だから執行部が会員から浮き上る虞れもあるし、一方では執行部は派閥的にやっているんじゃないかという見方もでてくるんじゃないか。

近藤　幸いにしてこの会の記録は会報に載っているので会員有志の意見であっても、会員の意見を捉えるメディアとして執行部はとらえざるを得ないでしょう。　たとえ我々がこの会でまとまった要望書を提出しなくても、それだけで有意義だろうと思っている。　この会としてボランティアでよいからこういうことをやりたいということが起きた時には意見具申してよいと思う。

百瀬　医師会には理事会と役員協議会とがあるんですが理事会は月末に開催され役員協議会は保険請求が終った直後に開かれますがこゝでは議決はしません。そこである理事が言われるには理事あるいは三役に就いていると、こういった会にでて話をして失言があった場合には、あとで取り返しのつかないことになって会員に迷惑がかゝることがあるので具合が悪い。だから私は遠慮するんだと言われたんです。そこで私は言ったのですが、この会は青梅地区の会員が多いんですが、これから東部とか南部で何か会があった場合でも、今後執行部になる人はこういった会に出て、たとえ失言があったとしても若い人たちの意見を肌で感じながら意見交換をし、そのなかで自分が会員にどれだけ信頼されているかを裸になってぶつかってみて自分の力量を確かめてほしい。　これからの執行部は肩書など小さなことにこだわらないで自分はこんな人間ですということを出していくくらいの度胸をもって人に当ってほしい。失言を虞れて何も言わなかったら一般会員の本当の気持に触れられないんじゃないかと思う。　神様じゃないから失言があるのはしかたないです。

吉野　医師会の首脳陣におられる方の出欠の御返事の添え書きを読ませていただきますと、非常に慎重すぎる感じを受けるんです。　盛会を祈ります、御意見は参考にさせていただきますと書いてあるんですけど、たとえ発言は何もなくとも積極的に会合に出て皆の声に耳を傾ける姿勢に欠けるんではないかと思います。遠慮されすぎているように感じます。

無過失であることが責任を果したことではない

近藤　少々皮肉に聞えるかもしれないけど理事と一般会員の間にヘダタリがあるんじゃないですか。　溝ではないけれども。

速水　執行部の中にはある派閥的なものを感じている人も居るようです。そんなことはない筈なんですけどね。

近藤　皆さんの話を聞くと、何か気分的なヘダタリがあるようだ。会報の記録を見て貰えばわかる通り、全然、派閥の匂いはないと思うけど先入感があるんじゃないですか。

唐橋　変な言いかただけど文句を言う側と守る側との問題だと思うんです。　立場上の違いでしょうか。

近藤　文句は観迎すべきじゃないかな。

唐橋　しかし僕だって執行部になればそうなるんじゃないかな。

百瀬　慎重になりすぎていると思う。　慎重にするより会員の声を汲み上げることの方がよほど大事だと思うよ。

唐橋　守りもよいけど吸い上げる部分を作ればよいんじゃないか。

植田　防衛的にならざるを得ないかもしれない、防衛的というのは個人的の防衛もあるし、医師会自体を守る防衛もあるでしょう。　そのためこういった会に出席することをためらう。　何故防衛的にならざるをえないかが大事でしょう。

吉野　前回にも医師会と会員の関係はレセプトの関係でしかないという話がでました。　私自身もこれまでそのくらいにしか考えていなかった。ところが医師会のお偉らがたの考えは少し違うようですね。　医師会は非常に権威のあるものであ

ると。　一方では医師会に無関心な一般会員は今の医師会には大した権威もないと感じているんです。　いかに一般会員の声を吸い上げるかということによって医師会の権威が生れてくるのではないですか。

百瀬　責任を感じすぎて、慎重になりすぎては本当の執行部の仕事をするにはマイナスだと思うんです。もっとフランクに会員の意を汲みとることに執行部の責任があると思う。

植田　つまづかないことが責任を果したことになるわけではない。責任の意味の解釈でしょう。もうひとつ私が言いたいことは、上意を下達された場合に一般会員のなかでザックバランに十分に揉まれること。それが今までなされていたかどうかも大切なことと思います。

黙っている会員も悪い

速水　青梅地区は上からの通達はサーッと通っちゃうんです。他の地区ではかなり議論があるようですね。青梅は関心が少いといえる。ブロック会も$\frac{1}{3}$集れば良い方。

坂本　青梅は昔から皆さんがいいかげんなんですよ。（笑）お上品な人が揃っている。

速水　だからやり良いことはやり良い。

坂本　上からは来るが下からは上って来ない。それは結局会員が悪いんだよ。（笑）下からガンガンやらなきゃだめなんだ。羽村でもそうだけどあまり文句は出ないんだな。だからと言って執行部を信頼しているかというとそうでもないらしい。点数のことだとすぐ文句をいうけど。（笑）

下から声を出すこと。各市町村単位で集って声をださなくちゃいけない。羽村では2ケ月に一回は集っている。呑み講だけど集まればいろいろの意見がでますよ。集まらなくちゃどうにもならない。　執行部は各ブロックの総会を年に3度や4度は開くように尻を叩かなきゃいけない。その前に各会員が自分達で開けばなお良いけど。

百瀬　いずれは執行部三役もでて来る感触はありますよ。

坂本　代表で交代に出てくれば良い。

植田　先ほど吉野先生が今日のテーマは今までの会合のまとめみたいな形になりそうだと言われたのですが、今日で八回目になりそれぞれ思うことを言い、意見を聞いて勉強になってきているわけですけど、言いっぱなしで良いのかということです。それだけでは一種のオナニーみたいなものになりはしないかと思うんです。これまでやってきたことを実りのあるものにしたいと考えるんですが。

役員の選びかたか選ばれた人の運営能力か

深山　医師会役員がどのような形でできているかということ。選ばれかたについてですが、医療について切実な問題のない平和な時代には年配の方のうち人徳のある人が選ばれて役員になっておられたと思います。　現在はその頃とは大分違ってきているでしょう。これからは特に大学改革を経験してきた若いドクターが会員のなかに増えてくると思われますが、古い会員と新しい会員の間にギャップが生れることもあるでしょう。役員が選ばれる方式が問題になると思うんです。

坂本　昔は一般会員は医師会に関心がなくて、長老が理事になり、そのなかで役所などに顔の広い人が会長になっていた。

植田　深山先生から貴重な御意見が出されたのですが、今月号に近藤肇先生が投稿されていますが、あれも一つの投げられた球だと思うのです。

吉野　役員を郵便投票で選ぶということですか。

植田　ええ。

吉野　先の深山先生のお話しを少し誤解を受ける向きもあるかなと思いながら聞いていたのですが、今の執行部は選ばれかたがまずいんじゃないか、皆の意見を代表しない人が選ばれているんじゃないかという意味にとられる虞れがあるような気がするんです。　私はそんなことではないと思うんです。　皆さんが適任と思って投票されたのですから。　現実に行っていることが皆の意見を反映していればそれでよいと思うんです。選ばれかたではなくて選ばれた人が選んでくれた人の意見を吸いあげて執行するかということの方が大事だろうと思います。　運営のしかたですね。

清水　現執行部に望むことと解釈してよいでしょうか。　若しそうだとすれば、この会の産れる契機になったX病院の問題について我々は現執行部に望んだではないですか。それをどういうふうに解決したでしょうか。吉野先生は現執行部がちゃんとやったと言うのならばどういうふうにやったか話してくれますか。

吉野　私はちゃんとやってくれたとは言っていないんです。　執行部としてはかなり苦労はされたと思います。　けれども誰でもが納得できる民主的な方法で解決されたとは思っていません。

従来通りのウヤムヤ主義の解決方法で一応のケリを付けていると思っています。

清水　だったら現執行部に望むというのは無理じゃないですか。

吉野　それは少し言い過ぎでしょう。

近藤　きょうのは現執行部に望むというテーマではなく、一般論でしょう。　現在と未来の執行部にです。

堀田　坂本先生のお話しでは従来の医師会は顔のきく長老が選ばれてきた。しかし現代社会では個人的スタンドプレイではうまくいかなくなった。そのいい例が今の日医会長の武見さんでさえも彼の神通力が失われてきたわけです。　今後はボス的な人ではなくて、会員全体の意向を体現できるような役員が必要になってくる。たとえそれが新人であろうと、会全体の支持がはっきりしている場合は対外的には発言力を持っている。そういう形の医師会の運営でないといけない時代にさしかゝっていると思います。

百瀬　さっき保険医総辞退の時の話で下意上達が執行部の進む道ではないかと私は言ったわけですが、それは現執行部に望むことでもあり、未来の執行部への希望でもある。

自らの考えを示して会員に信を問う

堀田　今まで何回か話し合って医師会のいろいろの問題点が浮んできたのですが今日の会はそれらを集約し、今後の医師会はどうあるべきかを考えたい。　指導性の問題、会員の声の拾いあげかた、あるいは全体の協力体制をどう組んでいくかなどを考えつゝ、今後あるべき医師会あるいはそれを運営する執行部のありかたという方向で話を進めたいと思います。

吉野　医師会長は施政方針演説を出してほしい。現在の医療をとりまく動きをどのように解釈しているかなど話して貰っても良いと思っています。

百瀬　賛成ですね。だまって俺について来い式の考えをもっているのか、それとも会員の声を聞きながらやっていこうとするのか、その辺を聞きたいね。それによって僕らはその人を支持するかしないか決めていきます。これからの執行部に当る人は自分達の考えを出して信を問うべきだと思うね。

坂本　会長は会報にもっとたくさん書いてもらいたい。

唐橋　医師会には対社会的のある程度固定した顔の部分と、もうひとつは流動的に変っていく部分、たとえば委員などが毎年のように交代するとか、そういった部分を折衷していく方法を取ればいいんじゃないか。　そうすれば今まで医師会で発言しない人でも順ぐりに会に出ていけばいろいろの意見がでるようになるでしょう。

深山　理事会を時々オープンにしてくだされば私達も様子を知ることが出来るんですが。

江本　理事会がオープンであるか秘密会にしなければいけないかは…

丸茂　定款には何も書いてないですね。

近藤　傍聴して良いと言ったって誰も行きやしないよ。

百瀬　理事会報告は会報にでていますが、それ以上に聞きたい人はテープにとっていつでも聞けるようにしてもよいですね。会員に知られて困るようなことは現実にありませんね。

江本　以前は簡単な議事録だったが今はキチンとした議事録を事務員に書かせてあります。

判断力と執行能力

植田　議事録はともかく、臨機応変な機動性のある執行でなければ医師会はこれからの社会情勢に対応できないと思うんです。その辺が欠けているんじゃないでしょうか。

吉野　医師会と住民のテーマの時に松原先生がおっしゃったことですが、理事会でいろいろの意見がでたときに、容れるべきは容れ、切るべきは切るという決断力が執行部に欠けているんではないかという御意見がありました。　その時のテーマからはずれていましたので記録からカットしたのですが本日のテーマに相当する御意見と思われますのでお伝えしておきます。

近藤　優柔不断な点があるというお話だったですね。　それと別にどなたかのお葉書に理事会で決定されたことが実行されていないという話がありましたね。

吉野　Y先生の御意見に、理事会の決議事項の

徹底的実施と書いてあります。

近藤　それは実行していないという意味でしょうか。

坂本　しないこともあるということでしょう。

深山　ひっかゝるのは徹底的でしょう。

高木　金曜会の発端になったX病院の問題の時も執行部からの諸論が曖昧だった。

堀田　理事会報告をみると大半が日医、都医、お役所からの伝達事項ですね。　西多摩医師会独自で論議し決定しなければならない項目はあまり見受けられない。　自分達の判断で決定しなければならない事態があまりになさすぎたんでしょう。だからイザ問題が起きてきた時に論議決定がスムースにいかないということだったのではないでしょうか。　X病院の件でもそういうことだったように思える。　今後の医師会は上部からの伝達事項を消化することも必要ですけど、やはり当面我々が何をどうしなければならないかということを拾いあげて執行部がキチンと決めていただくことが絶対的に必要な条件と思います。そういう執行部であって欲しい。

もうひとつ上からの伝達事項にしても段階を追って各セクションで消化されながら下りてくるのならよいけど、自分達にとってどういう意味をもつのかを十分に検討しているのかどうか疑問に思うんです。　理事会にでて聞いていないからかもしれませんけど。

江本　たとえばどういうこと。　感じはわかるんだが。

堀田　融資の利率など議論したってしかたないでしょう。　時間をそんなことでつぶさないで、西多摩医師会全体で今後どういうことをやるべきかとか、各ブロックに今どんな問題があるのかとかそういうことの議論にはいくら時間をかけてもらってもいいと思う。　たとえ結論のでない問題であっても。　医師会全体あるいは各個の会員にとって重大な問題はどこにあるのかに絶えず気を配っていただいて、そういうことで論議を高めていただきたいと私は思います。

速水　実際には伝達事項は会長報告を聞くだけであまり論議したことはないね。

会員の声の窓口は総務です

百瀬　本当を言うと理事会で諮るべきことは一般会員の要望を論議するところに実のある理事会ができると思うんです。　では一般会員の声の受付け窓口はどこにあるかというと、現在は総務部ですが、もうひとつの方法は各地区からでている理事に会員から話して総務を通して論議してもらうことです。　会員の声を吸いあげる手順ははっきりさせておいた方が良い。　そうすれば理事と会員の間の溝というか、へだたりがなくなると思う。

速水　会員の要望は総務で受付けることになっているんです。　先にでたX病院の問題の時にはそうしなかったので手違いがでたんですね。

五十嵐　一会員として問題がでた場合、取り上げてもらいたいときの方法は理事を通さないといけないですか。

江本　別に理事を通さなくてはならないことはありません。　ただ総務を通して議題としてでてこないで、当日になって突然話が出てくると不十分な討論になっていゝかげんな結論がでてくるおそれがある。　その結論がおかしいからと言って議論をむし返すのはよくない。　少なくともいちど議決したことはひっくり返さないことになっているんです。　そんなことは責任ある執行部のすることではない。　見方からすると官僚的と言われるかもしれないけど、そうではなくて民主的な考え方でやりたい。話はどんどん持ちこんでいただきたいと思います。

執行部の指導力と会員の討議とで全体の協力体制が生れる

吉野　私にはもひとつ違った要望があるんですが、理事会とか執行部の先生方は、我々にとって基本的な問題、たとえば開業医のあり方とか公衆衛生に対する考え方、将来の医療に対する考えかたとか、そういったものの理論のリーダーシップを取ってもらいたいと思う。　現在そういったことを本気で考えていてくれる人は、さあ、誰がいますでしょうか。日本医師会でしょうか、都医師会でしょうか、あるいは武見さんの頭の中だけでしょうか。　医師会の役員はそういったことも真剣に討議して、我々はこう考えているんだということを一般会員に徹底して欲しいと思う。

執行部は下からの意見を吸い上げるだけではなくて理論的指導者としての役割を果してもらいた

と考えるんです。

堀田　下からの意見を吸いあげながら方針をだしていくということが連動していないんですね。

高木　決定したことは会員も従う精神がなくちゃならないということかな。

堀田　下からの論議が積み上げられ、上からも論議されていれば、当然内容がわかっているわけですから会員は守るようになると思います。ところが下からの論議もない場合には、なんで俺がそれを守らなきゃならないんだかわからないということになる。こう決まりましたとポンと出されても俺には関係ないよということになる場合も多々あると思う。それが結局全体の協力体制を作りづらい原因に連がってくると思うんです。

坂本　理事の方は日本の医療のことはともかく、少くとも西多摩か都内の医療のことは考える必要はある。理事会で討論して意見を纏めればよいんだけれどもその一歩前に自分の回りの会員の希望を把握してやればよいんじゃないでしょうか。それには理事の方は自分の市や町の会員の意見を聞く体制を作らなきゃいけないんです。昔は理事は地域代表みたいになっていたんですけど、今は割合にそうでないようで理事会の理事みたいになっているんで、地域代表でない気がするんです。理事は地域代表でよいと思うんです。理事は一般の先生方の意見を聞く会などを積極的に作って皆さんの意見を頭に入れて理事会で発言すれば少くとも西多摩の医療をどうすればよいか、くらいの叩き台ができると思う。大変だとは思いますがこれからの理事はそのくらいの努力はしていただかなきゃいけないですね。

唐橋　議員は市政報告会などやっている。あんなものをやれば。(笑)

坂本　あれの小さいものだね。そうすれば今度私が理事になりたいと言えば頼むよということになりますよ。そういうのがこれからの理事ですよ。

近藤　そういった会を年に3～4回もやればいゝですね。どこの団体も同じですが役員だけが勝手なことをしているということのないように注意して民意を吸い上げて、機関を正しく運営執行していく。その長たるものはポイントを握ってうまく機関をまとめて、ワンマン的でなく良い意味のリーダーシップをとっていく、そういう会が望ましい。総論は坂本先生の御意見で大体出尽したようだね。

民主的な運営を望む

吉野　各論というとどんなことになりますか。

堀田　具体的なことでしょう。

吉野　Y先生のお葉書にある御意見ですが、対外的のものは派閥的傾向を考慮することを許さぬこと、とあります。対外的のものというのは何を指すのでしょうか。

坂本　国保の連絡委員とかそんなものではないですか。三多摩のものもあるでしょう。

吉野　派閥的傾向というのは

坂本　自分の気に入った人という意味じゃないかな。西多摩はそんなに派閥的じゃないでしょう。そんなに会員がいるわけじゃないからね。

百瀬　昔は会長は長老が決めた。最近は立候補制になって選挙運動らしきものが始った。何となく派閥らしきものがでてきたと感ずる人もいると思う。民意を汲むという点では選挙もよいが何となくギスギスしたものが生れてきたようだ。医師会は徒党の集りじゃない。朋友の集りであって個人が自分の判断によって選ぶものでしょう。選挙運動をするのはナンセンスと思う。この辺が今後医師会がまとまりをもってお互いに助けあっていく会になっていくかどうか私達の課題じゃないかと思うんです。

近藤　昔は長老といわれる一握りの人が医師会を牛耳っていたように聞えるけどそんなことはないです。その頃は会員の90％は集って、そこで役員を推薦した。だから割に派閥的なものもなかったし権力闘争もなかった。ただひとつ非常に封建的な体質だったですね。ことなかれ主義、長いものに巻かれろ主義でね。時代と共に変ってきたけど。今後の執行部に望みたいことは機関を重視すること、その舵とりを会長がやり、そのプロセスにおいて変な取り引きがあったり、不明朗なことがあったり、独裁的であったりしないように機関が民主的に運営されていくことですね。

会員は会のために何かをしようとする熱意を

加藤　私どもが医師会に相談することは入会のこと、事故のことくらいのものでしょう。だから理事会に無関心でいることが多いと思うんですが

民意を吸い上げる工夫をもう少ししていただければと思います。

近藤　今日の会は前回の会員の行動性のテーマの続きだと思いますが、なぜ医師会としての事業をやらなかったのか、あるいはやろうとしなかったのか、ということと、具体的には幾つかの行動が挙げられているんですがこれまでの話を論議するのが各論の導入になると思うんですがいかがでしょうか。

吉野　先ほど植田先生が少しおっしゃったことですね。　途切れてしまいましたが話し合いをするだけでなくて実際に行動すること。そのことですね。

百瀬　こゝで話したことが実際の何等かの行動になっていないこと、それを植田先生がマスターベーションになってしまうじゃないかと言われたんですね。　昔、何かの会を開こうたって事青梅に関してはこれだけの人数が集ることはなかった。今、俺たちは会のために何かをしなければならないという熱意を持っておられるからこれだけ盛会になってきたんだと思う。　今すぐ何かの行動にならなかったとしても、これが原動力になっていずれ何かの実を結ぶだろうと私は大いに期待しているんですよ。　今までは旗を振ってもバラバラと何人か集ってきても顔ぶれはきまっていた。ところがこうやって一般会員が集ってきて何かを握もうとする、何かをしようとしている、これが将来に何かを残すだろうと期待しています。

植田　金曜会には喋らせておけばいゝんだ、そしたら気持はすむだろう、それで理事会は安泰だと、そういった考えになってもらっちゃ困るわけだ。　ですから、執行部に望むというテーマではありますが金曜会でもできることは何かないかということです。　前回具体的に私たちでも動ける問題として貴重な御意見があったわけですね。

行動しないといつまでたっても意見が蔵の中に入ってしまう。

金曜会は放談会のまゝでありたい

近藤　今の金曜会としてでもものによってはできるでしょう。　そういうことを何かおやりになればよい。　話だけでは来年の春頃には皆んな厭きちゃって集る人もなくなるんじゃないかという気がするんですね。　心配しているんですよ。

医師会員は喋る機会が少いからこういう所へ出て話をするのが楽しいんですよ。　ところがただ喋るだけではマスターベーションになる。　自分達にも何かのプラスにしょう、西多摩医師会にも活気を吹き込もうとする気持が底の方にあると思うんですよ。

坂本　初めは放談会なんでしょう。

近藤　放談会であるから権力には関係はないですよ。　放談の中から中味のあるものがでてくるでしょう。　そのうちから執行部が良い意見をとりあげ修正するなりして西多摩医師会の政策に反映されるんじゃないかと期待するわけだ。

坂本　まとめて進言する方法もあると思う。ある程度進言するということでなければだんだん飽きますよ。　我々が進言したことが医師会のなにかに反映してくれば我々の楽しみにもなってくるでしょう。　喋ったことを会報に載せると言っても、あの連中には喋らせておけばいゝやと言うんじゃつまんなくなるんだけど、それほどには今の理事会がズウズウしくはないと思いますよ。　植田先生が考えているほどには。

植田　この会は実際に行動に移していないから言わせておけばいいと……。

坂本　それほどまでに悲観することはないと思うけどやはり一応は進言の形で持って行って医師会を動かすということでないと皆さんつまんないんじゃないかと思うんだけど。

百瀬　この会を始めた頃の吉野先生、堀田先生の考えはなるべく他地区の先生がたの考えを聞きながら自分の中にあるものを洗煉されたものにしたい、だからなるべく大勢に呼びかけたいというのが最初からの方針だったですね。

吉野・堀田　そうです。

百瀬　なるべく大勢の人の意見を聞くことはそれなりに意義があると思いますよ。　自分の考えも進歩してきますから。　もうひとつは植田先生の言われたように我々が煮つめた新しい何ものかを、やはり執行部に意見具申しながら会を良い方向に引っぱって行くという、そういった実りが欲しいわけです。　これが大事ですね。　ただそれによって執行部を我々の思う通りに動かそうと云うのじゃないですよ。　意見具申をしながら理事会としてそれを研究して貰いたい。　それが我々としては望ましい姿だと思いますよ。　それが採

択されようとされまいと、兎に角そういうルートはあってもよいと思いますね。

吉野　理事会におこがましいことは言いたくはないという遠慮はあるんです。でも心の底では我々の言っていることのうちで良いことがあれば取り上げて貰いたい気持は非常に強いです。　たとえ放談であってもです。

坂本　会報に出ているんだから植田先生の言われるような悲観論でなくてもよいと私は言ったんです。（笑）

堀田　悲観するわけではないんですが今日で8回目ですね。　これまでの7回の会に対して執行部の先生方から具体的な反応はまだないという感じはあるんです。　個人的にはお考えになっているかも知れませんが。　金曜会としてそんな問題を話しているのか、具体的にもっと話をしてくれとか、そういう反応、血の通った接触はまだないですね。　その意味では悲観的にならざるを得ない。　だから今後の問題として、ほんとはずっと放談でやって行って、それを執行部のほうからジッと見ていてこれは面白そうだと拾って呉れゝばそれが望ましいんですが、そうでないとすれば、これは放談だけでは駄目なんで、（笑）これはこういうふうにやって欲しいと注文を言わざるを得ないですね。　それは何回も会を重ねていくうちに情況が変ってくると考えてもよいんじゃないか。

坂本　そういう意味ではこゝに居られる理事の方に、理事会ではどういうふうに感じておられるのか褌ぬいで教えて貰えればよいんですが。

球は投げます

近藤　植田先生の言われるのは金曜会として何らかの出来ることがありはしないかということでしょう。　理事会、執行部があるに拘らず、おこがましい行動をとるという失礼なことをしない範囲で。批判があるとすれば一応批判でもだしていただいて……

坂本　確かに西多摩医師会の会員の一部の人が西多摩医師会を差し置いて何か仕事をするということはこれはちょっと考えなければならないことだと思いますよ。　それこそ理事会と会員が隔れてしまうことになる。

近藤　そういうことを踏まえて医師会に対して失礼なことにならないように金曜会としてどういうことができるかということ。

吉野　前回の話ででた事ですが金曜会の人々の労力提供によって、たとえばＨＢ抗原の検査による肝炎追放運動とか講演会を開いて住民と接触しようとした場合、それは医師会の仕事でもあるのだから医師会としてバックアップしましょうと一言いって貰えるのとそうでないとではずい分違うわけです。　そういうところをうまく拾いあげて欲しいのが理事会に対する希望ですね。

百瀬　理事会のシステムとして総務部から議案として理事会に提出されないと議案にならないんです。　だから議案として出されるようにシステムを活用することが必要です。

坂本　協議会には出せないんですか。

百瀬　どちらにも出せます。

坂本　だと、誰かがこういうことを計画している人々が居るけど医師会として取組んではどうかという議案を出せば決ってくるんですか。

百瀬　決ってくるでしょう。　要するに議案として出さないと返答は返って来ないですね。

吉野　やはり放談だけでなくて球は投げなくてはならないんですね。

百瀬　聞きおく程度になっちゃうんですね。

坂本　聞きおく程度でもいいことはいゝですよ。

百瀬　本当は球を投げなくちゃ。

高木　簡単な、あまり手のかゝらないものから始めることにして総務へ提出することにしたらどうですか。

金曜会の意義と行くすえ

堀田　本当は放談でもよいからワアワアやっているのが耳に入ればその中で良い材料を拾って会議へ出してくれるのがやはり仲間的な、まとまった医師会のありかたじゃないですかね。書式があって判をついて出さなきゃならないというのでは仲間の会ではない気がしますね。　そもそも医師会は世間全体から見れば小さな会ですよ。　だからこの会に御出席の理事の方が、じゃ今度の理事会へひとつ出してやろうということになれば嬉しいと思うんですが。

吉野　いち度協議会ででも金曜会で話していることをどのように受け取っておられるか、批判でもよいですから話して下さるといいんですが。

百瀬　やってみますか。　遠慮することはない。

吉野　そのあとで前回の話し合いで出た実際の活動、たとえば佐々木先生御提案の難病検診、精神衛生相談、登校拒否児の相談、講演会、苦情相談、HB抗原などがありましたね。そのうちからたったひとつでも取りあげて我々がやることになればこの金曜会の行末が悲観的にならないですむし、金曜会も言うこととやることが一致してくることになるでしょう。

近藤　活発な会なら皆んな出て来るんですよ。面白いから。　話だけでは迫力に欠けるからね。最初でていた人で今では喋るだけではつまらないと言って出て来なくなった人を知っていますけど。

吉野　話し合いだけではつまらないと言われた方があるとしても、結局、行動に移すには今までくらい話し合う暇が必要だったんですね。　最初から執行部の人を前にして話をしたら、若い連中が執行部を引っぱり出して吊し上げたとひどい批判が来たでしょうね。　やはりこれだけのプロセスが必要だったんでしょう。

川辺　金曜会がこれからも続くかどうかわかりませんが、医師会が武見日医会長のブレーンひとつで動いていた時期があったわけですが、これからはそうじゃないと思いますね。　そうした場合にこういった会合で話し合い根回しをしていた問題が現実面として飛び込んで来ることがあると思います。　武見会長の頭ひとつで動いていたものが、これからは医師会の総意の下でなければならない時代が来ると思うんです。　その時に今我々が諸々の問題を言い放しではあっても話をしていることが決して無駄にはならないと思います。

若し金曜会が立ち消えになったとしても、これから問題が起きてきた時に、且って金曜会をやったじゃないか、また集ろうということになるでしょうから、今までのことは決して無駄ではないと思います。

執行部云々よりも会員の自覚の方が大事

吉野　すこし話が飛躍しますけど、昔は厚生省も武見会長に遠慮していたんですね。　吉田元首相の姻戚ということもあって。　それに武見さんも理論家であるし、しっかりしたことを言うものだから医師会の言い分が通っていた。　吉田さんが亡くなり、岸さんも辞め、佐藤さん池田さんも亡くなって、田中さんの頃になってガラリと政治情勢が変って吉田さんの威光が消えてきた。　そして武見さんの言うことが聞かれなくなってきた。今は武見さんはつらい思いをしていることでしょう。　あれは本当は俺の力ではなかったと。(大笑)吉田さんの七光りに過ぎなかったんだと。　本当は医師会というものは下の方から盛り上る力を支えにしなければいけないんだと、今頃やっと武見さんはわかりかけてきたんじゃないかと私は思うんです。　それには西多摩だけじゃなくて、もっと多くの下部の医師会全部でこういった話し合いをやっていけば本当の医師会の実力がついて来るし、医師会のまとまりが生れてくると思います。そうすれば今までのように武見さんの言うことだけについて行けば良いという考えかたの医師会ではなくなってくると思います。

深山　たまたまこのいう会があって私達は少しずつ自分の考えをまとめて行き、あるいは間違った考えを軌道修正するわけですが、縁あってこういう会で話をしている人達はよいとして、いっぽうでは平和な時の医師会の考えかたで、まあ、執行部にやらせておけばいゝんだ、俺は俺だと思っている会員のほうがずっと多いんですね。　だから今日は執行部にかなり厳しいことを言っている感じなんだけれども、本当を言うとむしろ会員の自覚の方がもっと大事なんですね。　もっと出てきて意見を言わないかと云うのも執行部の役目じゃないだろうか。　それで素地を作って置く。これからの有事に備えて。　会員の自覚があればもっといいものができると思う。

吉野　時間がきましたのでこの辺で終りにしたいと思います。　次回は具体的行動を煮つめるということで12月21日（金）医師会館で、テーマはわかり易く「対外活動は可能なものから実行しよう」と致します。　夜遅くまでありがとうございました。

あとがき

西多摩医師会定款　第3条に目的として、医道の高揚、公衆衛生の向上、地域社会の厚生福祉の増進に寄与すること、と書いてあります。　定款としては申し分ないことですが定款に書けない最も大切な項目が抜けていることにお気付きでしょうか。　私達医師の将来の生活を守ってくれるのは誰なのでしょうか。　厚生省？　国会議員？

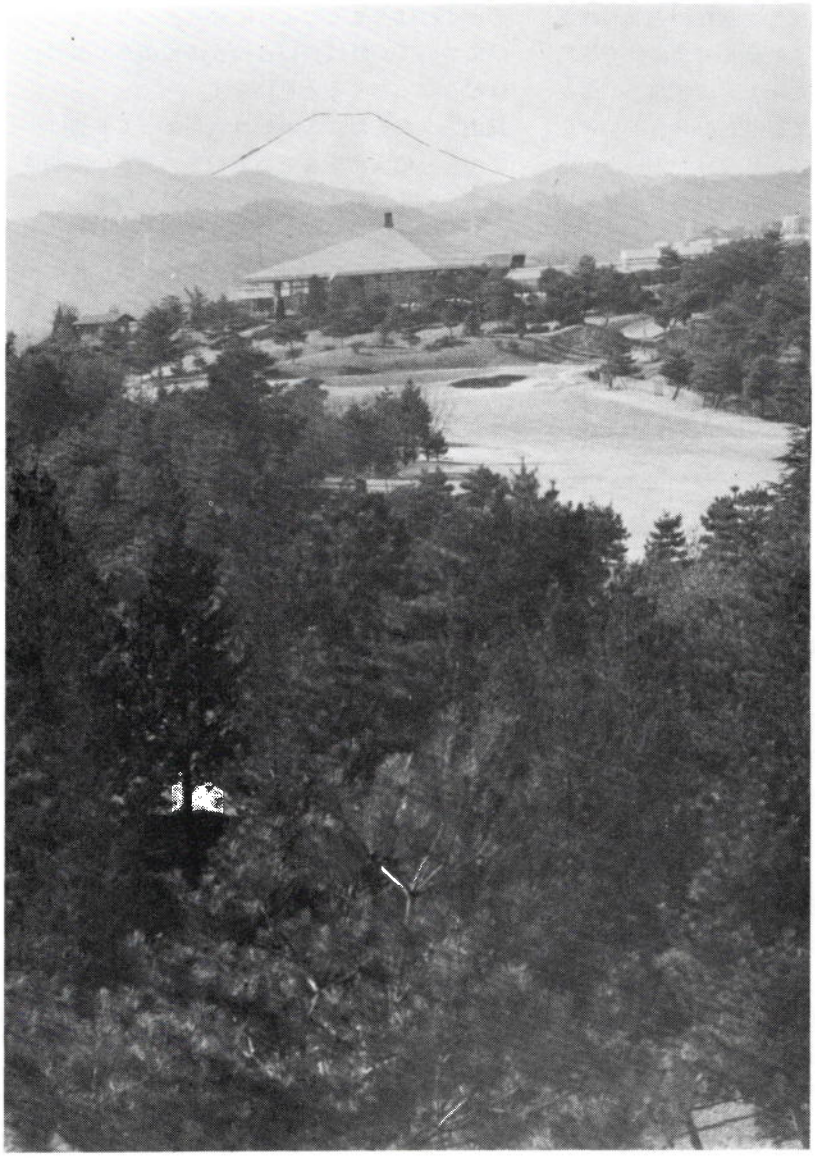
住民？　そうそう居ました。日医会長武見さんかな？　皆んなあてになりそうではないですね。

私達の生活は、私達自身の手で守らなくてはならないんですね。　個人の力では無理だから、私達の集団、医師会の力で自らの生活の保障を獲得しなければ社会の圧迫に押し潰ぶされてしまうでしょう。　テーマからは西多摩医師会の現在と将来の執行部に望んでいるように聞こえるかもしれませんが、私達の本心はこのことを西多摩医師会の一般会員だけでなく、広く、日本の医師諸兄に呼びかけたいのです。

皆さん、私達の生活は私達の協力で守りましょう。　そのためにはどうすればよいかを一緒に真剣に考えましょう。

（記録　吉野住雄）

文芸・随筆



青梅ゴルフ場の正月

青梅市　近藤　肇

七九年師走考

小泉新策

木枯に　野山は楚々と　枯れ落ちて
　師走の風の　肌寒きかな

百草の　萎えてひれ伏す　その中に
　黄菊白菊　なほ香残れり

藪も枯れ　僅かに残る　八重葎（むぐら）
　烏瓜（からす）のみ　ほの赤く見ゆ

今年は　問題多く　明け暮れて
　遂に　二旬で　八十年迎うか

いよよ世は　エネルギー源　争奪の
　危機をはらめる　時代にと入る

―― 初　　夢 ――

松原貞一

総立ちの与野党議員が送る万雷の拍手に応えるように、右手を高く挙げて衆議員本会議場を後にした私は、幹部議員や多数の報道関係者に囲まれながら、官邸の奥へと消えて行った。歴代総理の写真のかゝった大きな部屋の大きな椅子に座っている所をみると、どうやらこの私が本日この日より、我が日本国の総理大臣になったらしいのである。「何時何分より野党の委員長、何時何分より医師会関係……」と、小柄な上に小肥りで、顎まで揉み上げをのばして少々キザな秘書官が、分刻みのスケジュールの説明をし、西多摩医師会長も御挨拶に見えておりますと言う。「フム、フム、高水君も来とるかネ」と甚だ態度が大きい。そういえば此の秘書官、医師会の総務部の誰かさんに似ているようでもあり、マテよ、今度の日曜日は会のゴルフコンペと休日診療当番が重なってはいないだろうナなどと、新総理未だなりたてのホヤホヤ諸事に夢うつつなれば、思考も些か混線模様である。

「総理、そろそろ施政方針演説の時間でございますが」と再び揉み上げ氏が現れる。先刻総理の椅子に座ったばかりで未だ腰も温まらぬというのに、もう施政方針かと思うが、何分未だなりたての夢うつつ、かてて加えて生来時間の観念にうとく、いつも遅刻ばかりしている新総理、別に不思議と思う雰囲気もなく、サア、サアと揉み上げ氏にせき立てられて腰をあげる。そもそも演説などというものは空念仏の如きものにして、1年や2年の大臣在任で一体何が出来ると云うのか、何も出来やしない。何も出来ないということは話す方も聞く方も百も承知の上のことである。従ってありもせぬことをさもあるかの如く、出来もせぬものをさも出来るかの如く、時には三角を四角いや五角位にまくしたてることこそ演説のコツであること位、新総理もこれまで従業員の結婚式で何回かの場数を踏んでおれば、先刻承知の筈である。

私は今一国の首相としてこの壇上に立った当り、内外に山積する諸問題に想いをはせると、その責任の重さに身のひきしまる思いがするのであります、と夢うつつにしてはマアマアの出足である。今や世界の人口は45億を越さんと致しております。キリストが生れた頃の世界の人口は2億5千

万人でありました。それから10億増加して15億人となるのに、実に1850年の歳月を要したのであります。それがですよ、それから更に10億増えて25億人になるのに催かの100年、それが35億人となるのに何と20年とかからなかったというではありませんか。そしてですよ、そして今45億の人口がたったの35年で倍の90億になろうとしているのであります。何と恐ろしいことではありませんか。それにですよ、30年すれば確実に石油もなくなると言われているのであります。諸君、今我々が手をこばめて大平の夢をむさぼっている間に、世の終りは30年後確実に我々の所に来ようとしているのであります。野党席から、ココは国連ではないゾ、日本の話をセイ、日本の……と半畳が入る。そうです、我が国の問題について話すことこそ総理としての私の使命であります。それでは言いますが一体我が大日本帝国は……いや間違いました、我が日本の国土に一体どの位の人口が至適であるのでありましょうか。明治初年の3千万とも5千万とも云われております。いづれにしても現在既に過飽和であること位は、小学生に尋ねる迄もなく明白な事実であります。しかるに、しかるにですよ諸君、我々はこれ迄、全く馬鹿の一つ憶えのように、平均寿命を延ばせ延ばせと徒らに人口増加に拍車をかけてはいなかったでありましょうか。諸君!!……と新総理はやたらと諸君、諸君と力が入る…諸君、国家百年の計と申しますが、百年などと遠い夢まぼろしの話をしている時ではありませんゾ。30年先には確実に国家存亡の危期がせまっているのであります。そしてですよ諸君、そしてその為には誰が考えても打つ手は一つ、人口の削減、これ以外に救国の名案はないのであります。100人しかのれない筏に110人が殺到したと致します。諸君、諸君は政治家として一体どちらの道を選びますか。110人に権利の平等をみとめて110人の命を失うか、それとも10人の犠牲を求めて100人を救うか。平等を認めて総てを失うことは、宗教か又は道徳の原理であるかも知れませんが、少なくとも政治の原則ではない筈であります。人の命は地球より重いなどと議論をしている間に、筏は沈んでしまうのであります。

生きるということは、死なないということではありませんゾ。ポックリ寺を訪れる老人達の長い列を見るまでもなく、人は生き甲斐のある間生き、生き甲斐を失った時ポロッと死ぬことこそ、我々老人の願いではないでありましょうか。脳を侵され恍惚の人となっても、なお且つ人の命は地球より重いと、それ薬それ注射それ点滴と死ぬこともまゝならず、生きている老人達のなさけなそうな顔を、私はジッと凝視めることが出来ないのであります。人はいつかは死ななければならないのであります。確かに人が死ぬということは悲しいことであります。しかし、しかしですよ諸君、最早や為すこともなく呆然として屍の如く生きている老人達を見る方が、余程悲しくつらいことではないでありましょうか。人生も今や量より質への転換をはかるべき時が来ているのであります。死なないという理由だけで生きて行くことは、我々の本意ではないのであります。生き甲斐を失った時には、ポックリと行こうではありませんか、ポックリと。それが私が言う人口削減の第一歩なのであります。必要とあれば委員会を作って、人間として生き甲斐を失う平均年令を諮問してもよいと思っております。どうすればポックリと行けるのか、本年度日本医学会の研究テーマにしてもらいたいとも考えております。高血圧の治療などしない方がよいという答申が出れば、すぐにでも健保法を改正致す処存であります。60才でポックリ行った人には100万円、50才でポックリ行った人には200万円と奨励金を出すことも考えております。

諸君、どうか国家30年の計のため、与野党一致してこのポックリ法案を成立させ、広く国民運動にしようではありませんか。諸君、今や国家存亡の……と言って新総理は虚空を凝視めたかと思うと急に棒のようになって、バタンと大きな音をたてて後ろに倒れた。どこかで、かすかに、大変ダァー、総理が脳卒中でポックリだァーという声が聞こえて来、私は急に目が覚め我れに帰ったのであります。何アナタ、大きな口開けて、何やらうなったりして、嫌ネエー、変な夢でも見てたんでしょう…と。そうです、そうです、そうなのであります。正月早々全く変な夢をみていたのであります。

当るも占星術、当らぬも占星術

昭和55年の運勢やいかに

内山　大

80年代は、と未来的な表現で、一つの期待をこめた年代として待望していた80年も、ついに現実のものとなってきました。　昭和55年、56年は変動の年ともいわれております。相当大きな天変地異が起るのではないかという予想もあります。そこで私は、日本の運勢を ― というような大それた考えは毛頭ありませんが、私達がいまその組織の一員として属しております医師会の、執行部一人一人の性格運勢を、生年月日の星によって占なってみようと思います。ただし断っておきますが、これは単なる興味本意の読み物でして、炬達に寝っころがってでもお読み頂だき、あれは誰だろう、これは誰だろうなどと、ただひたすらに非生産的な思考をめぐらし、ご希望でしたら医師会の将来は？なんて高級な夢でも追って頂だけたら、望外の幸と存じておりますので、決して真面目な顔をしてお読み下さいますな。

人の運は、生れた星によってきまるといわれます。果してどうでしょうか。という訳ですので、各人の名前は伏せてありますし、勿論順不同です。

では早速A氏から始めます。

A氏：　この人は、物腰は静かで、クールな性分。ときに周囲には冷たい印象を与えるが、実際は肉親愛が人一倍強くて、親兄弟思いの人です。批判力旺盛で理屈っぽいですが、時代の波に乗る器用さはありません。今年は「和合、協調、政治力、宗教心」の星が出ています。社交性に富み、外柔内剛型。天中殺は未だ数年後。12月1月注意。

B氏：　この人も大体A氏と似ていますが、更に批判力旺盛で、的確な批判をする一方、理屈のための理屈にもなりがちで、そのため単なる理屈屋で終るおそれもあります。又肉親と他人とを、はっきり区別する身びいきタイプで、他人とはたえず一定の線を引いてつき合います。修得能力に秀で、特に古典の分野に関心を持ちます。今年は更に「斗い、行動、短気、責任感」の星が出ていて、動乱期に力を発揮する〝武官の星〟です。攻撃本能強し。天中殺は数年後。要注意月は12月1月。

C氏：　たいへん義理人情に厚い人です。過不足ない人生航路ですが、時に異性えの愛情が強すぎる嫌いがあります。又財産を残すことがとても上手で、お金には不自由しませんがやや利己的な方法で蓄財する嫌いがあります。今年は「責任感、自尊心、名誉、名声」の星です。プライドの高さを特徴とし、その質は「潔癖」。平和のときに力を発揮します。　天中殺は数年後。注意月は12月1月。

D氏　社交性に恵まれ、何をおいても人づき合いを大切にする人です。自分の感情をおし隠すので、周囲にソフトな印象を与えます。　外面が良く内面が悪いタイプです。積極的な人づき合いをする星が出ていますので、やや他人との摩擦が生じ、精神的な葛藤を生むこともあります。今年は「反発、反抗、孤独、感受性」の星です。束縛は嫌うが内面は人情家。性格的に感情の起伏が激しく、動乱期に力を発揮します。

E氏：　とてもロマンチストです。感受性が強くて神経質。束縛を嫌い、反抗精神が旺盛で、頭を押さえようとすると猛烈にくってかかるタイプ。しかしふだんは冷静で、心の中は暖かく、人情家ですが、表面に現わさないので、冷たいという印象を与えます。又敵を作

り易く、頭の回転が早いので、人の腹の中を見透す力をもっています。
何れにしても、感情の起伏が激しく、時によると変人的な思考や行動をとることもあります。今年は「食祿、健康、温順、遊び」の星です。おおらかさ。性格的にのんびりした星で、平和な時期に力を発揮します。　天中殺は数年前に過ぎました。2月3月要注意。

F氏：　体制に従うことを好まず、常に開拓者のこころを燃やしている人です。他人からの命令や束縛は大嫌いですが、表面きって反発もしません。「離別と放浪の星」です。積極的に他人の中に飛び込んでいけるタイプ。古いものを破壊して新らしいものを創造する「戦国武将型」の人間です。ほんとは外科系で成功する人でした。今年は「知恵、学問、古典、母性」の星。質は知性。理屈屋で平和な時期に力を発揮します。12月1月要注意。天中殺は数年後。

G氏：　ふだんのあなたは、表面的にはとてもおだやかに見えます。しかし日常生活の中で、伝統とか習慣にとらわれず、むしろ新らしいものを創り出してゆく姿勢が見られます。飾り気なく、誰とでも話しをする人柄。底力を備えており、やはり戦国武将型といえます。今年は「温厚、堅実、家庭、蓄財」の星で、やさしく用心深い大器晩成型。いつも平均した力を発揮します。
天中殺は過ぎました。4月5月注意。

H氏：　感受性が強く神経質でロマンチスト。束縛を嫌い、集団を離れて孤高のの生活をする嫌いがあります。気むづかしさで周囲を辟易させますが、人間的に成長するには一にも二にも苦労です。苦労をしてこれを乗り越えれば、穏やかな奉仕の精神が養われて、寛大な心を持つようになります。時に常識では考えられない変人的な行動をとることもあります。今年の星は「温厚、堅実」質は保守。当面天中殺はありませんが2月3月が要注意。

I氏：　たいへん行動力があって折目正しい人です。ただ気性が激しく、すぐカッとする気の短かさが玉にキズ。人とのいさかいも多いですが、いつまでも根にもつようなタイプではありません。スパッと竹を割ったような、一本気な性格です。喜怒哀楽をストレートに表現してしまう正直者で、悪くいえば単細胞人間。考え方は感情思考型。時に大ブロシキになる特徴もありますので要注意。今年は「食祿、健康、遊び」の量が出ています。平和な時期に力を発揮する〝子供星〟。　天中殺は55年56年。　8月9月要注意。

J氏：　社交性に恵まれ、何をおいても人づき合いを大切にします。事業家としての能力は抜群です。そのため家庭内でのトラブルを招き易い宿命があります。又大きな組織の要にのぼる星も出ています。ただし、人とのつき合いに知恵を働らかせがちです。良し悪しは別として、権謀術数にたけたタイプになり易いですから、友情にヒビを入らせない心配りが大切です。今年は用心深くやさしく「温厚、堅実、保守」の星が出ています。

K氏：　この人も人づき合いを家庭より大切にする人です。積極的な人づき合い。そのため他人との摩擦も多くなって精神的な葛藤を生じることもありますが、事業家としては大成します。
今年は「反発、反抗、孤独、感受性」の星で、空想とロマン、動乱期に力を発揮します。

L氏：　「離別と放浪の星」、見ず知らずの人の中にもためらわず飛び込んでいける積極的な気質。飾り気なく誰とで

も話しをする人柄。体制に従うことを好まず、孤独な性格ですが、忍耐力の持ち主。なかなかのアイデアマンで、芸術とか創作に力を発揮します。天中殺は当分廻って来ませんが、4月5月が要注意。

M氏：　たいへん義理人情に厚い人で、気っぷの良さが特徴です。愛情こまやかで、周囲の者すべてを引きつけたい、人に好かれたい愛されたいと願います。
　特に異性に対する愛情が強く、家庭争議をも起しかねません。ズバリ「女難の相」とまではゆきませんが。
しかし財産を残すことがとても上手で、不思議とお金に不自由しません。今年はファイトのある努力家の星が出ています。「自我、独力、マイペースの人生、頑固」で自分の立場を積極的に固めるでしょう。

N氏：　孤独さを内に秘めた開拓者、体制に従うことを好みません。ふだんは表面的にとてもおとなしく見えます。しかし日常生活の中で伝統とか習慣にとらわれず、むしろ古いものを破壊して新らしいものを創り上げていく姿勢が見られます。創作能力に恵まれ、色彩感覚が発達していますので作家、画家として新境地が開けます。今年のあなたは「創造と破壊」内に強いエネルギーを持つ星で、動乱期に力を発揮します。「離別、放浪、改革、忍耐」。
要注意月は10月11月。

O氏：　「過もなく不過もなし」の星。でもたいへん義理人情に厚い人です。愛情がこまやかで、この人も異性関係に問題がありそうです。それでも貧ほどつらいものはないという貧には縁がなく、お金には不自由しません。今年は「責任感、自尊心、名誉」の量で、その質は「潔癖」。攻撃本能の強いスポーツマンタイプですが、平和時に力を発揮します。　4月5月要注意。

P氏：　きちょう面で潔癖。プライドが高く、やや〝官僚型〟。どちらかといえば〝慎重居士〟、人生にミスが少なく、安定した路線を歩みます。責任感は強いですが大胆さはありません。一匹狼的な質があり、ややガムシャラな行動力がありますが柔軟性もあり、やさしい性格です。今年は「知恵、学問、古典、母性」の星でその質は知性。修得能力にすぐれ、平和時に力を発揮します。天中殺は55年56年。8月9月。

Q氏：　「食祿の星」の持ち主、生涯食べるのに苦労しません。食生活に追われずにすむため、精神的な余裕が生まれ、趣味を楽しみ、良い悪いは別として遊びに熱中する生活になり易いです。
　性格的にはおおらかで、のんびり屋。ただし粘り強さに欠けます。額に汗して働らくことが嫌いなタイプで、間違えれば怠けものになりやすい。とにかく遊び人です。天中殺は数年前にすぎました。4月5月が要注意。いつでも平均した力を発揮します。

以上で病院出身のお二人以外全員の干支星による性格運勢です。見当のつく人がいたでしょうか。私自身、恐ろしい程よく当るのでびっくりしております。人さまざま、平和時に力を発揮する人、動乱時に力を発揮する人と多様ですが、またそれでこそ医師会はうまくやっていけるのかも知れません。

今年はまた役員の改選期です。

きびしい現実の中で、どのようにして医師会を、医師を代表する会として、更に確固たる地位にまで築き上げてゆくか、急増時代を迎えての課題はつきません。　会員諸氏の、ますますのご発展を祈ります。

正月の想い出

速　水　完　一

愈1980年、1920年生れの私にとっては60回目の正月となるわけで、将に光陰は矢の如しです。此の60回の正月を振り返って見ると、いろいろあったが家族、家庭を離れての正月は3回のみで、何れも想い出多いものになって居ります。

先ず第一回は、昭和19年、中国の青島で迎えた正月。当時は戦時繰り上げで6ケ月早く18年の9月に卒業した私共は、直ちに海軍々医学校に入隊、軍医としての基礎訓練を彼の地で受けていました。　国内は食料事情が悪く、同じ食料を集めるなら人間の方を食料豊富な青島へ運んで、と云うわけで青島での正月でした。「ラッパ」で起き、駆ケ足ニ海軍体操で始まる日課、勉強と云えば教育勅語や軍人勅諭の暗記と云う釣り匠生活では、6合メシでも足らず、食べる事と寝る事のみが楽しみな生活で、其の正月も殺風景なものでした。然し我々の内、百名内外にとっては、最後のものとなったわけで感慨は無量でした。

次の20年は台湾の基隆で迎えた雨の正月でした。此の時は駆逐艦「桐」の軍医長でした。此の艦は小さい乍らも乗員は300人を越す気儘な男世界でしたが其の戦斗は激烈でした。12月中旬比島のマニラを基地として行きなれた最後のレイテえの輸送作戦は惨々でした。3杯の兵員輸送船を中心に駆逐艦3杯等、総勢15杯で小型乍ら堂々の船団を組み出航しました。当地の作戦参謀から「この作戦は10中の10、生還の見込がないいわば特攻隊である、諸子も覚悟してかかれ…。」と脅かされましたが、代って意気軒昂で出撃したものです。

やがてレイテに近づきもう少しで安全圏と云う処で敵のロッキードP38に発見されてしまい攻撃を受ける事になりました。数拾機の小型機の来襲で戦闘開始、忽ち船団は阿鼻叫喚、燃えるもの、沈むもの、3度目の来襲では本艦が攻撃の的となり、至近弾を喰い立往生してしまいました。船は傾き灯は消える、もう駄目かと覚悟しましたが機関部の必死の努力でどうやら片舷で航行可能となり更に進みました。夜のオルモック湾では敵駆逐艦を攻撃し、敵艦隊からは電操射撃をあび彷徨しました。どうやら任務完了し帰途についた時は、眼の前で沈んだ僚艦の乗組員や陸軍の負傷兵や船舶兵を満載しやっとの思いで走っておりました。途中潜水艦の雷撃を受けた時も、敵は本艦の速力を誤認し其の雷跡は艦の前方を横切って行きました。基地に帰投して戦死傷兵を送り、ドック修理の予定でしたが敵上陸近しの情報でそうも出来ず、自家工作で舷側の大穴を塞ぎ、早々に夜のマニラ港から脱出しました。そして高雄、基隆と辿り着いてでの正月でした。然し戦斗態勢は解けず4日には内地に向う小型タンカーの船団を護衛する為出航しました。当時は日本に渡るのが大変で、敵艦の狩場を避け先不中国大陸に接近、其の沿岸ぞいに山東半島迄北上し遼東半島迄つっかけ、朝鮮半島西岸を南下し夜の海峡を押し渡り九州の大連で給油、夜明けを待って内海に入る事になっていたのですが、桐は途中で機関故障の信号を発し船団から離脱し、暫らくして修理完了の旗を挙げ其の儘単艦行動をとり別府迄直行投錨、其処で正月のやり直しをしました。命拾いの正月でした。

第3回は九州、人吉で迎えた正月。当時私は桐から航空隊に転勤、其所で飛行機がなくなり解散、本土防衛の為の人吉海軍警備隊と名前は立派だが内容はお粗末な隊が編成されましたが其所の軍医長となり、間もなく終戦。一旦は東京へ逃げ帰りましたが又呼び戻され残務整理班に残されました。私の仕事は終戦時解散した薬剤、衛生材料を集め保管する事でしたが何故か永びきました。始めは旅館住いでしたが1泊5円で手当が月150円では苦しくなり下宿を探した処、丁度海軍さんが帰ったからどうかと云う話があり住み込みました。其所には娘さんが3人いて、長女は戦時中は航空隊の花と云われた理事生で若い士官の憧憬の的だったらしく、私は入隊が遅く先任分隊士の重責にあり専ら軍務精励で殆ど隊内居住で一顧も出来なかったのですが、之が代つく気になっていたらしく、それでお呼びが掛かったようです。確かにすばらしい女性でした。主に妹さんの方が面倒を見て呉れましたが、待遇も良く部屋も別棟を一人で占領食事もまあまあで、何と云っても下宿代を取らな

いのが何よりで、体の良い居候生活が始まりました。海軍さんがモテルと云う事を終戦後になり始めて体験しました。

処が暮も押しつもるも良い処、大晦日の夕方になって急に母親がやって来て今直ぐ家を出て呉れと云い出した。寝耳に水とは将に此の事、理由を聞くと「明日正月で客が多いので此の部屋を使わなくてはならない、其処に妙な男がいるのは迷惑です。親類の長老がうるさく云いだしたのでお願いします。」との事、云われて見れば御尤な話だが、何故もっと早く云って貰えなかったかと云った処で、今日明日の問題ではどうしようもない、そう云えば以前妹さんをどうかと云う話もあり、当時私共は終戦のショックで、此の身が将来どうなるかも判らないのに嫁処ではないと云う気がありましたので受けられませんでした。それに良い娘さんでしたが、輝く姉に比べると一寸と云う事もありました。あの時の事が具合悪かったなと思っても後の祭り、然しどうも此の家の人々の本意ではなく娘さん達の涙もあり、まあ良いって事よと寅さんの心境で宿を出ました。

然し面白くない話で、格好が悪く人に云えたものではない。第一此の大晦日の晩に何処へ行ったものかと考えました。私同様居候生活をしている仲間の処えも行けないし、ままよと以前隊の本部のあった旅館の門を叩きました。出て来た女中達に開き直って下宿を追ん出されて来たから泊めて呉れと頼み込んだ。「軍医長さんはだらしがない。」とか何とか散々からかわれたが、結局は同情して呉れ又1泊5円の生活に戻る事になった。

宿の問題は治ったが、治らないのは胸の内、早速仲間を呼び集めやけ酒を飲み交しまして、もうあんな処えは行かんと心に決めて正月を迎えました。然し2日後下宿の娘さんが迎えに来た時には其の決心も崩れ皆をさそって出掛けて行き、集っていた街の娘さん達と百人一首等に打ち興じ全くしまらない話だが結構楽しい正月になりました。

以上3回、何れも趣きを異にした正月でしたがいわば青春の想い出、勿論私も若くスマートでした。

新春随想

大橋忠敏

明けましてお目出とうございますと、まあ月並な口上を申し述べながら考えてみますと、今年は猿年で1980年なんですね。私は1920年の猿年生れですから、これで還歴を迎える身となった訳です。

さて私の誕生日はと申しますと、これが4月1日なんです。エープリルフールじゃないかと笑われるのですが、笑いごとでないのは4月1日までに生れた者は早生れということになっている点です。おかげで私は大正15年に小学校に入りましたが、常にクラスの最年少者である訳です。チビであることにコンプレックスを感じながら、昭和2年は2年生、昭和3年は3年生と、昭和の年数と小学校の学年数が一致するコースをたどりました。昭和3年頃でしたか、東京行進曲が大ヒットして、そのレコードのメロディが巷に溢れましたが、その中に「ジャズで踊ってリキュールで更けて」という歌詞があります。その頃千葉県の谷津に潮干狩に行った楽しい記憶が生々しかったのと、家が四谷見附の近くで赤坂離宮をよく眺めていたために、私はてっきり「谷津で踊って離宮で更けて」だと思いこんで、そのように歌っていました。谷津に当時果してダンスホールがあったかなんてことは子供には分りませんから、谷津でダンスを楽しんで赤坂離宮の前まで帰って来たら夜も更けていたということだろうと解釈した訳です。昭和5年、父の転勤に伴って満洲の小学校に転校しましたが、昭和6年には満洲事変が勃発し動乱の渦中に巻きこまれました。中学は郷里の山口中学校に入り、まかり間違って4年修了で旧制山口高校にまぎれ込んでしまいました。ここには浪人から入学した揚句1年をドッペって我々と一しょになったヒゲ面のオッチャンみたいな級友も居りまして、「君は若いなあ」と云われたりして、依然としてクラス最年少の私は益々劣等感のとりことなり、早く年をとりたいという気持で一杯でした。それで未成年のくせに高校入学早々から無理して酒と煙草の練習にはげみ、メキメキと腕を上げま

した。そうして3年間、サッカー部で大いに青春を謳歌したおかげで、大学入試は見事に予定通り失敗、浪々の身となり上京して予備校に入りました。当時日劇は他の東宝映画封切館と同じ料金で、映画のほかにダンシングチームのレビューが見られるので、よく通いました。始めて見た時の感激たるや大変なもので、嗚呼世の中にはこんな美しい女がいるのか、ウーンと、卒倒せんばかりの衝激を受けました。

閑話休題、1年浪人してめでたく大学に入った時点で、私は遂にクラスの最年少という屈辱から脱却することができたのです。嬉しかったですね。そして戦争、大学は3年半で嫌応なしの繰り上げ卒業。甲種合格ですぐ軍隊にとられ、短期現役の陸軍軍医中尉殿になりましたが、昭和19年の夏比島のオンボロ歩兵部隊付にとばされました。ゲリラ討伐などやっているうち、昭和20年3月10日米軍に上陸されてドンドンバチバチやりましたが、この時始めて、この戦争は横綱とフンドシかつぎの取り組みだと悟りました。それから今度はこっちが討伐される身となって、ミンダナオ島の山中をはいずり廻ること半年、誠に悪運強く、憎まれっ子世にはばかるというか、不思議に生き残って、昭和21年の春再び故国の土を踏みました。

それから、ああなりましてこうなりまして、昭和35年5月、青梅市立総合病院に着任しました。間もなく西多摩医師会に病院代表の理事として出ろと云われ、恐るおそる医師会館に伺ったのですが、人情味溢れる人格者ぞろいの先生方に温く迎えられて、有難いことでした。大正9年生れが案外何人も居られ、大正会などと称して一しょに痛飲したりした楽しい思い出があります。そして病院では院長につぐ年寄りとなり、「近頃の若い者は……」てなセリフを云うようになって五十の坂を越えましたが、長年の暴飲暴食がたたって、昭和53年12月13日切腹、胃の$\frac{4}{5}$をちょんぎられる破目となりました。正月は我が家でと、術後15日目に威勢よく退院したものの、体力の回復は思ったよりはかどらず、オタオタして居りますうちに、青天のヘキレキの如く吉植院長が辞任され、私が院長ということになってしまいました。これで病院には私より年寄は1人も居なくなり、早く年をとりたいと熱望したかっての紅顔も、今や額に深い皺を刻み、頭には霜を頂き、首筋たるみ、口許ゆるみ、おどろおどろしき老醜を鏡の中に発見して愕然とする仕儀と相成りました。仲々売れなくて困っていた娘がやっと片づいてヤレヤレと思う間もなく、ハネムーンベビーを作ってくれたおかげで、私は名実ともにお爺ちゃんになってしまいました。そして今年の四月馬鹿の日を以て満60才です。意地の悪い奴が赤いチャンチャンコなど送ってよこすのではないかと、心配しています。

物忘れがひどくなって、しかもこの様に過去のことばかりベラベラしゃべるのも、老化現象の一つでしょうか。ホヤホヤの三等院長として、山積する院内外の諸問題に押し潰されそうな態たらくですが、医の原点は患者への奉仕であることに思いを致し、患者の身になって親切第一で行きましようと職員に呼びかけながら、暖か味のある病院作りを目ざしたいと思っています。病院は今年から、3次とまでは行きませんが、2.5次程度の救急病院としての体制をとります。1次と2次の機能分担を明確にしながら、医師会と病院との協調融和をはかることが大切だと思います。現在、旧外来・管理棟をこわして改築工事を進めていますが、来年6月完成予定の建物の中には、図書室に、接して医局の向いに医師会員サロンの一室を設けます。鬼が笑う話になりましたが、折角ご利用頂きたいと存じます。

何はともあれ、本年も何卒よろしく倍旧のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げまして、新春のご挨拶と致します。

理事会報告

54. 11. 26.

報告事項

1　会長協議会報告

①医師法及び歯科医師法施行規則の一部を改正する省令の制定について

死亡診断書の書式の一部改正が行われました。当分の間、改正前の書式によるものであっても差支えないとの事です。詳しくは各会員に配布されていると思います。

②年末年始社保国保請求書提出期日について

毎年のことでして各会員に通知済みです。

③学術講演会の開催について

昭和54年12月13日(木)　13：00～16：00

有楽町　朝日講堂

学術映画　骨と老化

講演　運動器官の老化をめぐる諸問題

司会　東京慈恵会医科大学整形外科教授　伊丹康人

講師　東京都養育院付属病院内分泌科医長　折茂　肇

浜松医科大学整形外科教授　井上哲郎

慶応義塾大学整形外助教授　平林　冽

④第12回都市医学会総会開催について

⑤民間医療機関防災及び消防設備整備事業に対する利子補給について

本年を以って利子補給事業は終了との事です。

⑥日本救急医学会について

昭和54年11月22日23日24日、国立教育会館にて行われた。

⑦サンヘルスの発刊について

毎日新聞からサンヘルスが発刊になりました。お正月からは12頁になります。お手元に届くと存じますが、多数必要の方は一部10円ですので申込まれたい。送付に手違いがありまだお手元についていない方もあるようですが、出来るだけ確実に配達されるように努力致します。

⑧共済部会傷病交付金のアンケート調査について

傷病交付金の増額に対する要望もあり、検討するための参考資料としてアンケート調査をお送り致しますので、御協力をお願い致します。尚、過日担当理事に未加入者名簿をお渡ししてあります。本年一杯募集期間を延長致しましたので多数の未加入者の入会をお願い致します。

⑨その他

第20回日本医学会総会の総合医学展示のガイドブックがあります。多数の方にお求め頂きたい。

2　三多摩庶務連絡会報告　(箱崎理事)

議題として各地区医師会の入会金と会費についてでしたが、入会金についてはまちまちですが会費については、当医師会と同じように保険点数によりランクをつけて決めている所が多いようでした。次に災害時の救護医療活動の協定書はどうなっているかという事ですが、西多摩では都のモデルに従って協定を結んでおります。又、先日行われた三多摩医師懇談会の会計報告がありました。

3　四者協小委員会報告　(松原理事)

四者協議会は今迄に3～4回開かれたようですが、細かい実務的な事はこの小委員会で検討するというために発足しました。議題はとりあえず都内の三者協の問題を四者協で検討しようという事になりました。

まず1才6ヶ月児健診についてですが、現在4ヶ所で行われています。方法も個別方式と集団方式がありこれも統一されておりません。私が近くの青梅市と羽村町に限って調べてみましたが、自治体としては予算の関係もあり来年度もやる気がないようです。

その他に予防接種健康被害調査委員会というものが各市町村に出来る事になりました。

4　医師会新年会について

1月19日(土)　5：00　から昨年と同じホテル森川で行う事になりました。

5　保険講習会について

当初は整備委員を中心にと計画したのですが、やはり一般の会員を対象にした方がよいという事になり11月29日2時から行います。会員には通知済みです。

6　その他

松原理事：風疹の予防注射を中学3年女子に行われていますが、中3で、もれる人もあるという事で、羽村では中2から始める事になりました。また羽村では此度、中2、3年の風疹の抗体検査を行いました。近日中に結果が出ると思われます。

協議事項

1　私立幼稚園医報酬協定額について

53年に報酬基礎額として、園児100名までは年額60000円と取り決めましたが、額についてはいかがでしょうか。

当時は経営状態の非常に悪いところもあってあまり高額で話し合いが出来なかった。

お互に協定書の交換が出来ていないようですが.

話し合いをした連合会に加入していない幼稚園もあり画一的に出来ない事情もある。

保育園や幼稚園の職員の健康診断を頼まれているが、その費用の請求額はどのようにしたらよいか。

学校医の場合、教職員の血圧検尿などの健診には、いくらか決った額が出る事になっている。

青梅市の職員の健診はレントゲン、血圧、検尿などを行って4000円払われていると聞くが.

学校医は職員の健康管理にどこまで関与するのか調べる必要がある。

細部については学校医会で調べても　う事としましょう。

全員了承

2　新年会招待者名簿について

今年の招待者について御検討頂く訳ですが……結局昨年と大体同じ人及び歯科、薬剤師会長にも出す事にする。　　了承

以前は同好会という形で会員の親睦の面で非常によかったと思うのですが、招待者が多いとどうしても会員同志の親睦という点では悪くなり、会員の出席数も少くなってしまう。

今後の医師会の展望という事から考えると、各界の人との附合いが必要となって来るため、このような会をもつ事も有意義だろう。

3　その他

①五日市保健所長より結核審査委員2名の推薦の依頼がありました。

南部地区にまかせる。

②公立小中学校医の職員の健診についての契約書がありました。問診、聴診、血圧、検尿を行った場合1名900円請求出来るようです。

③青梅市立総合病院が第二次救急を取り扱うのに際して医師会との会談の場を持ちたいとの申し入れがありました。

12月20日（木）2：00より、当医師会からは3役と宮川、松原、西村、速水、百瀬先生に御出席をして頂く事にする。

④市町村長との協議会がありますが、各種報酬額は前回に決めましたものを提案する。

⑤学校医退職時の慰労金についての提案

会員の内部からも要望があり、歯科の先生達との関係もありましたが、青梅市や羽村町に相談しましたら賛意を示してくれましたので、ここに協定書の案を作って参りましたので御協力をお願いしたい。

全員了承

4　新入会員　承認

以上

（記　土田）

事業部

「サンヘルス」の発刊と活用について

東京都医師会
広報委員　箱崎　淳

われわれは、常日頃、世間の医師に対する風当りの強さに憤懣やるかたない気持を持ち続けて来ました。　日刊紙、週刊紙その他のマスコミは一方的誹謗的に報道し、深く理解しようとする努力もせず、素人的言いがかり的な記事が多く、しかもそれが商業紙の目玉となる様な風潮の中で、わ

れわれ医師個人々々の頭には直ぐにも反論すべき意見を持ちながら、之等に対抗すべき適切な発表手段をもたない悲しさで、仲間同志で憤りを発散させるのが関の山という状態でありました。

こうした中で、東京都医師会では、たゞ手を拱いていたわけではなく、広報部によって「朝日ホームドクター」等で大衆に医療問題の正しい理解をせしめる様な努力が地道に続けられて来たのですが、医師会員が満足するようなマスコミえの対抗手段には成り得なかった様です。然し、必ずしも無駄であったのではなく、かえってその様なねばり強い努力の積み重ねが、マスコミの一角を目覚めさせる原動力となりました。

これを機会に、都医ではより効率的な対外広報活動の方法論を探究し、着々と具体策がねられ、其の第一報は、三多摩広報研究会に於て、神津都医広報担当理事から発表され、詳細は都医ニュース8月号、西多摩医師会報9月号に紹介されております。これはマスコミの中で、医療問題についての報道が必ずしも正確でなかったことについて毎日新聞社が理解を示し、その協賛によって発刊されるタブロイド版8ページ（第3号から12ページ）の月刊紙「サンヘルス」（発行所ヘルス通信社・毎日新聞社早稲田別館TEL（03）208－9255）をとおして、われわれ医師会員が考え、活動することが如何に学術性、公共性の上にたったものであるかを一般大衆に正しく報道することであります。

それは、「サンヘルス」の編集について、記事内容の企画、資料の提供、指導監修すべてにわたって都医広報部が責任をもって行う事によってなされます。初年度は「医療問題に関する基本的考え方の解説」が根底となり具体的には①世界の医療における日本の医療環境の現状、②日本の医療制度、③日本における健保制度の歴史的考察、④健保制度乱立の現況、⑤健保制度は社会保障の一環、⑥社会福祉は救貧対策、⑦憲法第25条（最低保障）の解説、⑧最低保障と現物給付、⑨現物給付と福祉行政、⑩乳児医療無料化の弊害、⑪保障と福祉と保険の混同、⑫公衆衛生の向上に無限の努力、という様な内容が平易にイラスト等をまじえて正確に理解し得る様に工夫され、又家庭の主婦が興味を持つ様な家庭生活の諸問題、健康・医療相談、医師と患者・住民の対話といった地域住民との信頼感の確立に役立つ様な記事でうめられる筈であります。

この「サンヘルス」は印刷配送等を毎日新聞の機構に組み込んで、当初都下を主として一般家庭に15万部、医療機関や関係方面を含めて20万部が配達され、最終的には全都におよんで50万部となる予定であります。マスコミの一方的な報道で、われわれの善意と犠牲による公共的活動は無視され、悪材料だけ誇大に強調して書きたてられた事に対して、今までずい分長い間、対抗手段を殆ど持たず真実を正しく一般大衆に平易に理解せしめる事は不可能に近かかったのですが、この度この様な大規模な、それも目覚めたマスコミ自身の力との協力によって実現出来ることになったことは、相当な前進であろうと考えられます。

「サンヘルス」第1号はすでに11月8日発刊され、すでに各医師会を通じ先生方のお手もとにとどいていると思われますが、渡辺都医会長も「日本の医療を混乱から救い、都民のための医療環境を向上させる事に大いに役立つものと考えている」とその発刊を祝し、日本医事新報（11月24日号）も「都医、住民に正確な医療情報の伝達へ、サンヘルスを創刊、医療環境の向上めざす」と題してこれを取り上げ詳細に報道しています。又、都医ニュース11月号でも「対外広報活動の展開にサンヘルスの活用を」と都医全会員に呼びかけております。

これから健保連等の悪宣伝がいよいよ激しくなることが予想されるとき、之を対外広報活動として、患者に、待合室に、知人に最大限に活用利用されることをお願いいたします。

又、今後益々拡大発展せしめるためにも気軽にどしどし注文をつけていただきたいと思います。

尚、「サンヘルス」の利用購読、その他の疑問点については事務局までお問い合せ下さい。

保険部

西多摩医師会　　9月分

診療報酬明細書返戻状況

返戻理由	医科（乙表）件数
1. 記号番号不備不明および保険者名（符号）不一致のもの	70
2. 国保・国鉄等基金と契約してないもの	3
3. 生年および患者名不備あるいは記載ないもの	16
4. 傷病名不備あるいは記載ないもの	5
5. 診療開始日・日数および転記不明あるいは記載ないもの	15
6. 日雇健保で給付期間の満了したもの	0
7. 初診・負担金・再診および往診料について不備不明のもの	2
8. 投薬の場合薬名・用量・回数等が不備あるいは記載ないもの	8
9. 注射の場合薬名・用量・回数等が不備あるいは記載ないもの	1
10. 投薬・注射・X線で点数算出根拠の不明なもの	6
11. 処置および手術で内容の不備なもの	3
12. 検査で検査名・回数・内訳の不備なもの	0
13. 診療内容と摘要欄記入事項とが不一致のもの	0
14. 診療内容および方針の説明を要するもの	15
15. 上記事項に該当しない不備・不明のもの	6
計	150

医師会日誌

医療機関数　141　病院　19
　　診療所　122

会員数　222　A会員　133
　　B 〃　89

会議
12月 7日　役員協議会
　18日　理事会（兼忘年会）
　18日　保健所連絡会
　25日　税務研究部会
　26日　会報委員会

講演会・その他
12月 7日　整備会
　12日　法律相談
12月13日　学術講演会
　19日　阿伎留病院ＣＰＣ

役員出張
12月 3日　都医公衆衛生部会
　 5日　福生保健所定例会
　10日　都医学校医会
　12日　五日市保健所定例会
　13日　都医学校医連絡会
　16日　医政連集会
　20日　青梅市立総合病院救急対制説
　〃日　明会
　〃　管内自治体首長との懇談会

会員通知
○年末年始の保険請求書提出日の変更について

の広い庭を眺めていたら、池の端に「いいじゃんけの庭」と彫った石に目が止まりました。「いいじゃんけ」と云うのは甲州の方言で直訳すれば「いいですねの庭」となりますが、この言葉は　美しい、よい、と云う意味にも、同意とか賛同の意味にもつかわれます。従って「美しい庭」とか「賛同の庭」となりますが本当の所は名付け親にでも聞きたいところです。

新年の先生方の原稿が豊富に集まり編集者としてうれしい悲鳴となりました。しかしさて50頁以上にも及ぶと年末の多忙な印刷所は、12月20日をすぎると発行不能だといいます。そんな時一部依頼した原稿がおくれていたので一時は途方にくれる始末でしたが、編集担当者頭をよせあって「三役の年頭所感と、医師会会員の声、それに新年にふさわしい随筆を主体に編集する」ことに決め今回は学術、旅行記、味覚、談話室等を省略させていただきましたので、一部原稿が来月廻しになりましたことを御投稿下さった先生方におわびを申し上げます。

こんなにつめても出来上ったものは平常の二倍くらいでした。やっと印刷がまにあいごらんの新年号となりました。これで読後先生方が「いいじゃんけ」と云って下さる事を期待しているんですが……。

（記　米山）

第10回　金曜会のお知らせ

テーマ：医系議員は有用か
日　時：1980年1月18日午後7時30分より
場　所：西多摩医師会館（食事準備します）

〃　お　知　ら　せ　〃

昭和55年度の校医報酬、予防接種出務手当等について去る12月20日管内市町村代表＝山崎青梅市長、並木羽村町長と懇談の結果下記のように取決めが、できましたのでお知らせ致します。

記

学校医報酬	月額	25,500	年額 306,000
同内科管理手当	〃	10,000	〃 120,000
計			426,000
就学児身体検査報酬	一	回	26,000
予防接種出務手当	時間当り		18,000

昭和55年1月1日発行
発行所　西多摩医師会
東京都青梅市西分3－103
TEL（0428）23－2171㈹
会報編集委員　川崎健一郎
米山　秀雄　堀田　洋夫　道又　正達
土田　守一　堤　次雄　植田　稔
松原　貞一　桂木　真　足立　卓三

印刷所　マスダ印刷　TEL（0428）22－3047

Cardioprotective Trasacor®

…ストレスから心臓を保護します。

トラサコールは、β-受容体遮断作用のほかに、やや穏やかな膜安定化作用と本剤固有の内因性交感神経様作用(Intrinsic Sympathomimetic Activity：ISA)を有する不整脈・狭心症治療剤で、過剰な交感神経系の刺激から心臓を保護します。

新発売

不整脈・狭心症治療剤

トラサコール®

錠20mg・40mg CIBA

当社は全国のご開業医の先生方だけを顧客とし、29年間あらゆる努力をしてまいりました総合コンサルティング商社です。形は株式会社ですが、実態は協同組合的精神で、すでに6,000余名の先生方を株主にお迎えし、トータルなサービスを提供しています。先生もぜひお仲間にお加わり下さい。

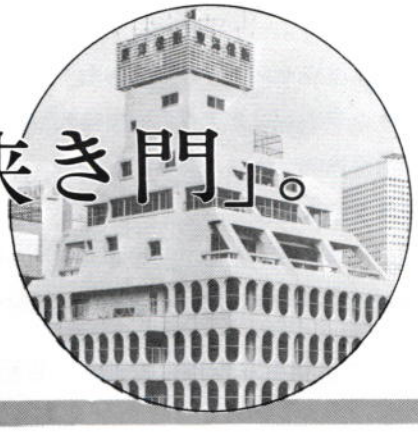
ドクターだけのための総合コンサルティング商社

株式会社 東洋信販

東京都渋谷区代々木4－27－25 ☎(03)379－5111(大代)

代表取締役・大谷昭雄／設立・昭和24年8月／経営総資本金・225億円／従業員数350名／北海道支社（ルーベデンス札幌・札幌営業所）・千葉営業所・埼玉営業所・横浜営業所・三多摩営業所・福岡営業所・ハワイ営業所・富士開発事務所・北海道管理事務所ほか46事業所／関連企業31社

拡げません。
東洋信販の「狭き門」。



西多摩担当の荒瀬正博です
よろしくお願いします！

赤血球の変形能を高め、
脳微小循環での血流を改善する。

脳微小循環への新しいアプローチ。
7.5μ≦3.0μ　直径7.5μの赤血球は、直径3.0μの毛細血管を自ら変形しながら通過します。この赤血球の変形能を高め、脳微小循環の血流を改善するトレンタール。容れ物(血管)ではなく中身(血液)に着眼したヘキストの、新しい治療概念をもつ微小循環改善剤です。

微小循環改善剤〈ペントキシフィリン〉
トレンタール錠
健保適用

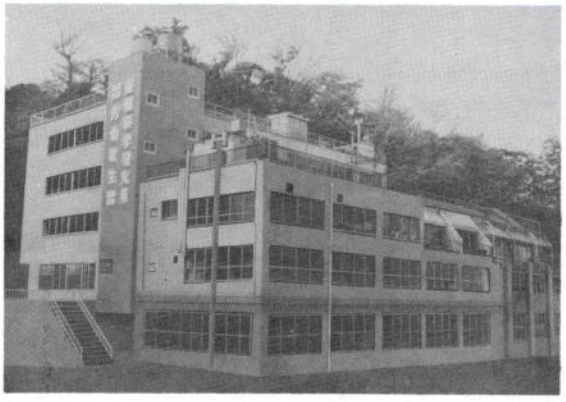
Trental

ヘキスト ジャパン株式会社
医薬品事業部
東京都港区赤坂8-10-16 〒107・TEL(479)5111(大代)

●詳しい用法・用量、その他の注意などは、現品添付文書(能書)をご参照ください。

臨床検査センターの雄
保健科学研究所

横浜市保土ヶ谷区神戸町１０６
電話 045（333）1661（大代表）
八王子市子安町３－１７
電話 0426（26）2203・2204



○総合臨床検査センターとして20余年間地域医療に貢献し、絶大な信頼を頂いています。
○完全オンラインシステム化を実現致しました。（データー通信システム）
○関係医療機関　約 3,500ヶ所
○広範囲な検査内容
●内分泌学検査●免疫学検査●ウイルス検査●生化学検査●血清学検査●血液学検査
●病理組織検査●細胞診検査●重金属検査●水質検査

1都11県の御得意先を毎日定期的に集配致します。御一報を御待ち致しています。